

復テ対策レポート

時間短縮のマジック

成績向上委員会

- ・著作権は成績向上委員会（株式会社アップツー）にあります
- ・本内容の一部または全部を複製および転写することを禁じます

講座生のみなさんへ

こんにちは、タイガー山中です。

このレポートは、

どうしても、A問題の正答率が上がらない！

何回やっても、時間短縮ができない！

という方へのヒントになればと、私が実践している**ちょっとした工夫**を公開することにしました。「タイガー山中って、こんなこと考えながら指導するんだ〜？」と、どうか参考になさって下さい。

みなさんは、

頑張りが同じでも、点数は上がる

ってこと、信じられますか？

きっと、大人の感覚からすれば、不純に感じるかもしれません。

でも、「**楽をして点をとらせる**」という発想は、子供たちに勉強をさせる立場の者にとっては、すごく大切だと思っています。なぜなら、子供たち全員の理想なのですから。そこは、ご理解いただけますよね。

あとは、子供たちの理想を現実のものにしてやればいいのです。

いいですね、目指すは**楽をして点をとらせる**ですよ！

今月の課題である

A問題の正答率90%以上をキープ

ですが、うまくいかない原因は、**処理力**が足りないからだと言えます。

よく「練習などではちゃんとできて、テストになると間違えてしまう」なんて話を聞きますが、正答率90%程度(テストでいえば、1~2問の間違い程度)であれば、処理力を上げることで解決できます。

ここでいう処理力とは、「ムダのない解き方で、正確に答えを導き出す力」を意味します。なので、スピードはあるけど、雑な解き方をしていたのでは、処理力は身につけません。

そして、処理力を身につけるために、

A問題は、3回取り組むこと

を勧めています。もちろん、3回やればOKということではなく、

1回目にかかった時間の1/2

を達成するまで取り組んで欲しいのです。

これは、言うのは簡単ですが、実際にやるのは大変です。なにせ、復習(単元)テストの場合ですと、テスト勉強の時間はそんなにありません。その限られた時間だと

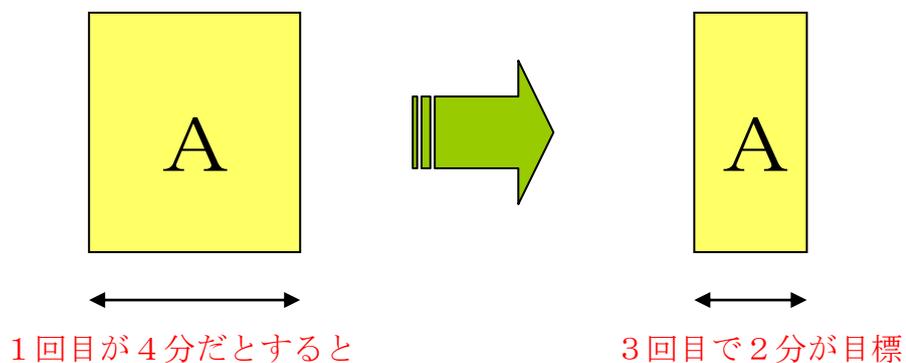
■ A問題を3回やる時間がない

■ どうしても1/2に短縮できない

という方も出てくるでしょう。

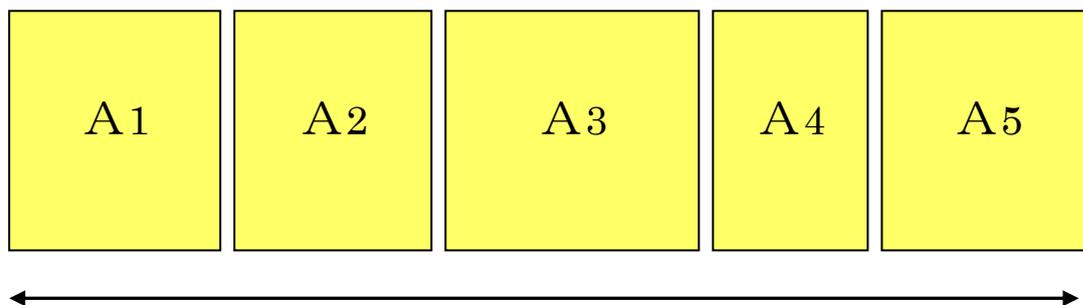
そんな方に考えて欲しいことがあります。

まずは、目標の確認を図でイメージしてみましょう。こんな感じですね。



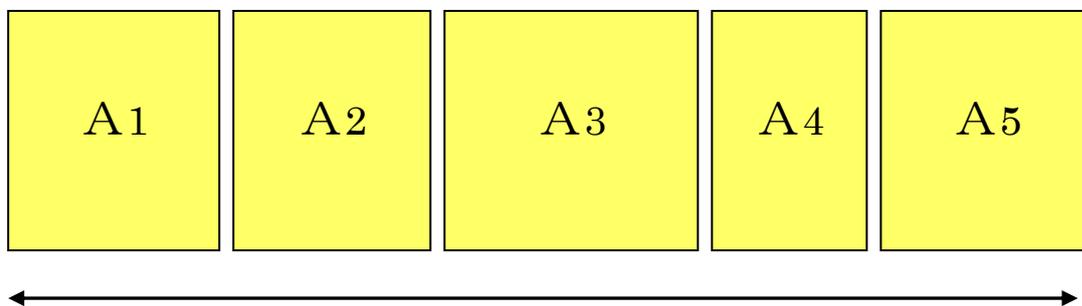
次回のテストまでにA問題が5問あるとすれば、全てを1回目の1/2の時間でできるようにして、テストに臨もうとしています。

問題によって時間も異なりますから、1回目はこんな感じになりますね。

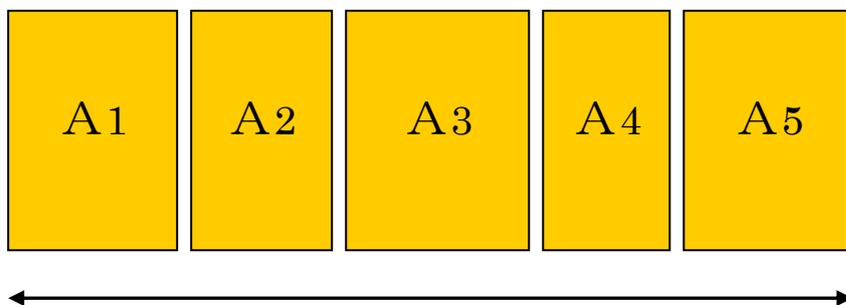


では、2回目をやるとどうなるでしょう？

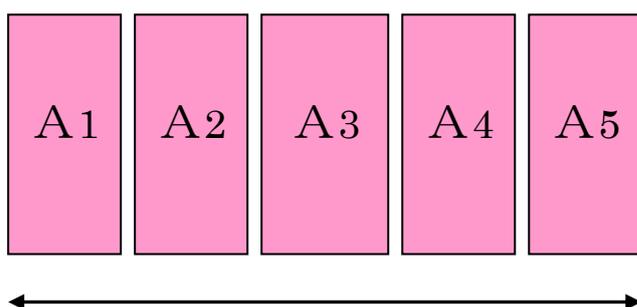
1回目はこんな感じ。



2回目では、少し時間短縮され、こんな感じ。



3回目に1/2が達成！



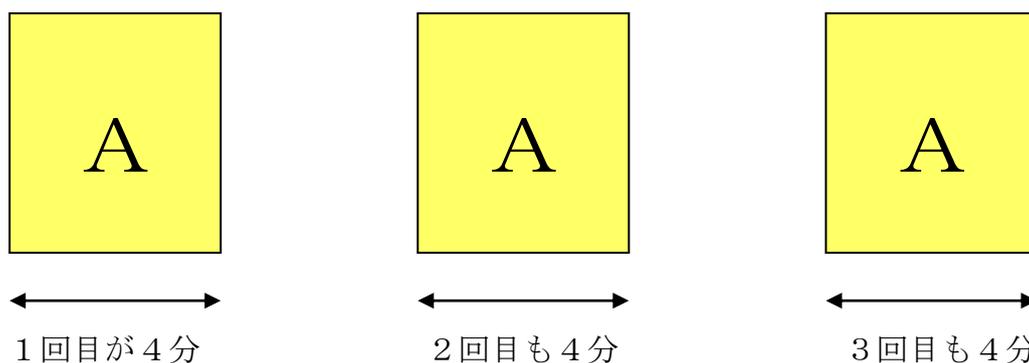
こうなるのが理想なんです。

でも、実際はもっと問題数も多かったりして、なかなか3回やってもうまくいかなかったりするわけです。

時間短縮のマジック（基本編）

同じようにA問題を3回やっても、最終的に時間が1/2に短縮できる人とできない人がいる。

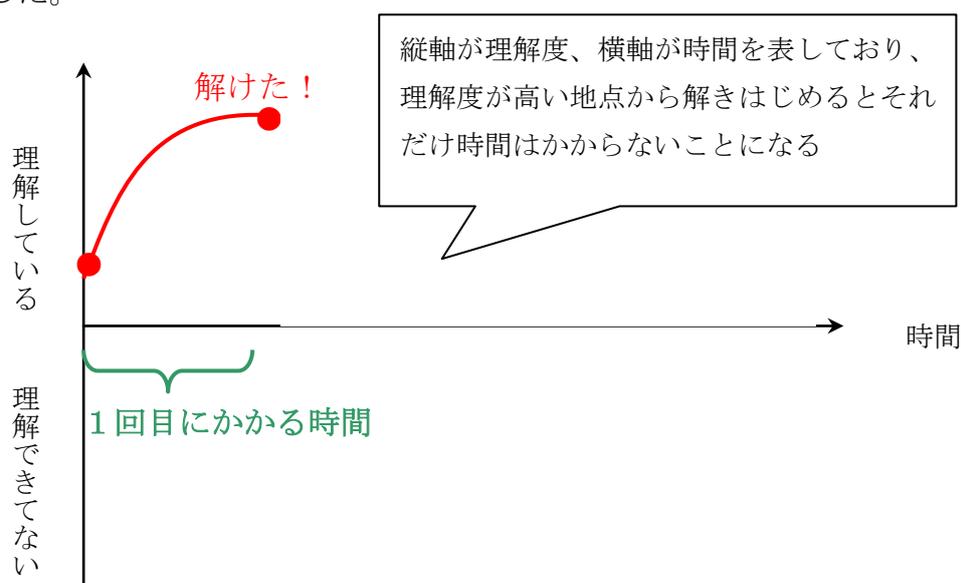
残念なことに、3回とも時間短縮ナシ！なんてことに...



勉強時間でいえば、4分×3回＝12分。でも、1/2の2分になるまで何回やる必要があるの？となってしまいます。

なぜこうなるのでしょうか？

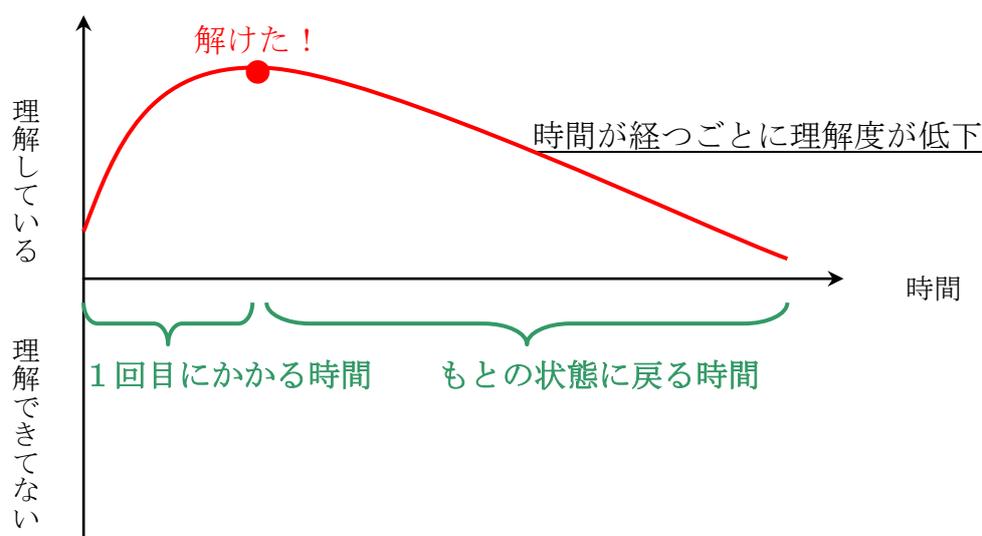
まずは、このグラフを見て下さい。子供たちのA問題を解く様子をグラフにしてみました。



これで考えれば、1回目をやることで理解度は増すため、2回目はさらに時間短縮が可能になるはず。なのに、

2回目も同じ時間がかかってしまうのは、どうしてか？

原因は、さきほどのグラフの続きにあります。問題を解いて、理解度が最高点になったあとに注目です。



いかがですか？

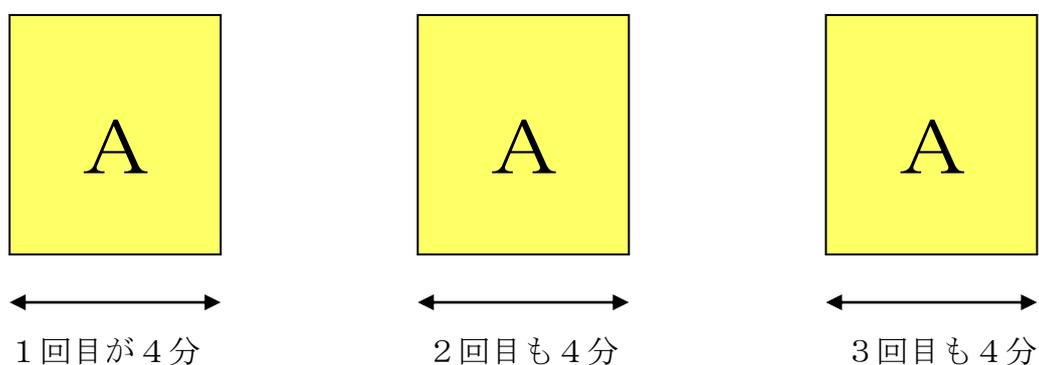
2回やっても時間短縮ができないときの多くが、この原因によるものです。勉強は、1回やっても時間がたてば元の状態に戻る。戻ってしまって、2回目をやっても時間短縮はできないのです。

つまり、**2回目は、元の状態に戻る前にやること**

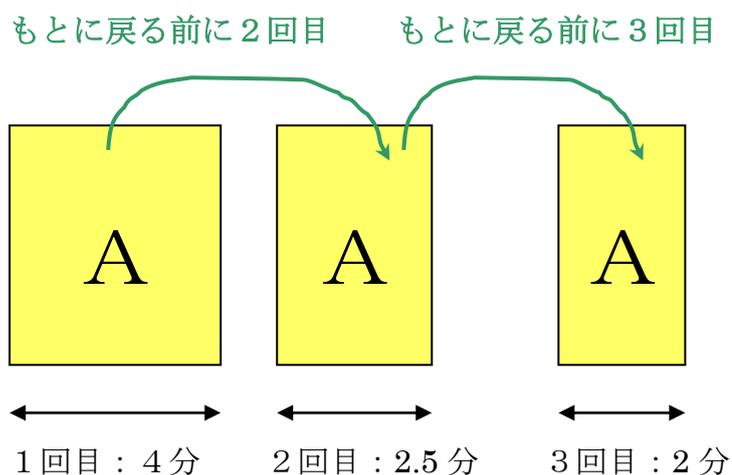
そうすれば、1回目より理解度の高い状態で2回目をスタートすることができるので、時間は短縮できるのです。

では、さきほどの例をどう変えるとよいのかを見てみましょう。

さきほどの例で



3回やるのに、12分かかっていた勉強が、



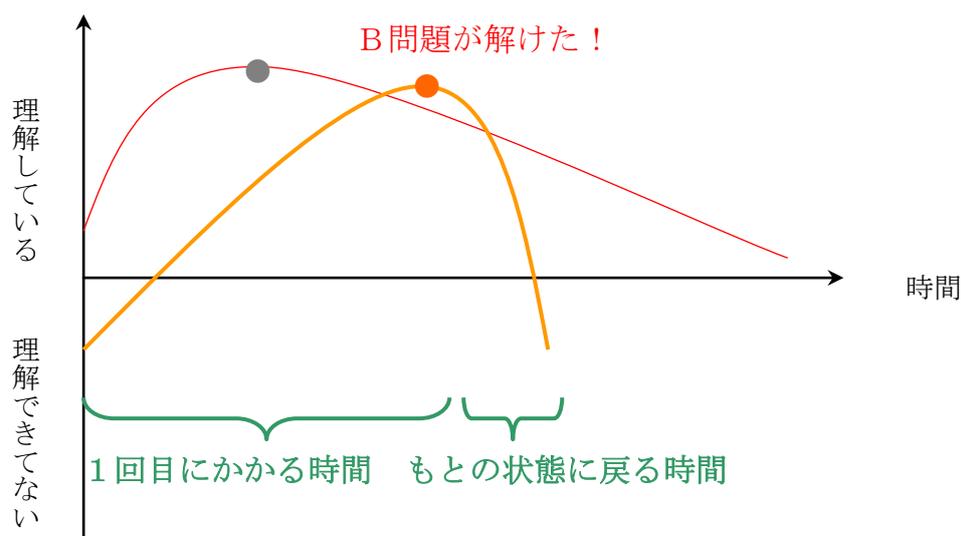
3回やるのに、**8.5分の勉強に!**なんてことが起きるのです。

しかも、時間だけでなく**1/2短縮**することで**理解度もアップ**となります。

理解度のアップは、点につながりますので、まさに、**楽をして点をとらせる**になるのです。

どうですか、少しはイメージがつかめましたか？

それと、少し余談ですが、理解と時間の関係は問題のレベルによっても異なります。たとえば、Bレベル問題なんかですと、さきほどのAレベル問題とはスタート地点も違いますし、理解する速度も違います。そして、元に戻る時間なども違ってくるわけです。



そうなれば、2回目をやるタイミングだってAレベル問題よりも変える必要があることがわかると思います。

私とストロングは、時間が経ち理解度が下がったことを**鮮度が落ちた**なんて言っており、常に意識しています。

そう、勉強も鮮度が命！

なんですね。

みなさんも意識していきましょうね。

はい、ではもう少し実践的な話へと進んでいきましょう。

時間短縮のマジック（実践編）

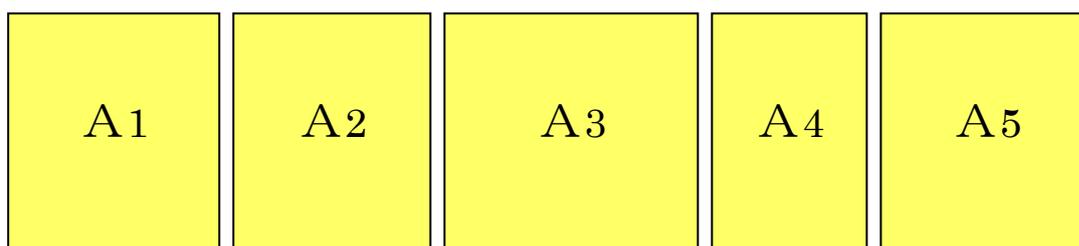
さきほどの話は、あくまでもA問題1問を取り上げた基本中の基本に過ぎません。実際には、A問題だってたくさんあるはずですし、B問題だってC問題だってある。

そこで、さらに実践的な事例でどうやって取り組むべきかを考えていきます。

※私の解説を参考にせず、ご自身で解明なさっても構いません

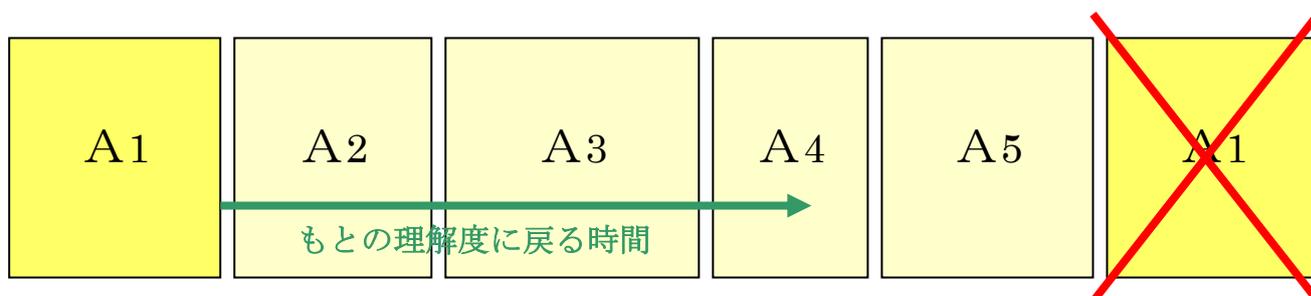
〔問〕 A問題のいけドンシートが5枚（A1～A5）あります。
あなたは、子供にどうやって解かせますか？

まあ、最初の1回目は、こんな感じ？



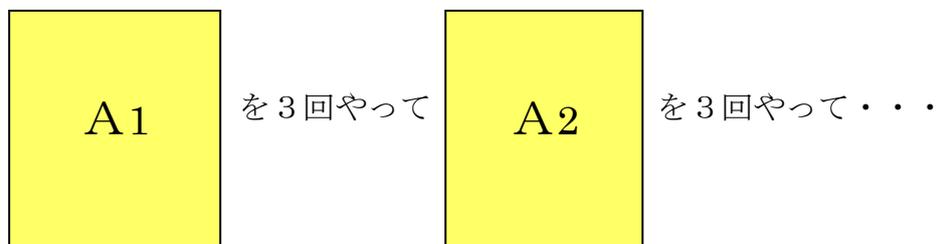
なんて考えるのは危険だと気付けば、たいしたものです。

A1の問題をやってから2回目をやるまでの間に「もとの理解度に戻る時間」をオーバーしてしまうのではと、2回目のタイミングを意識することです。

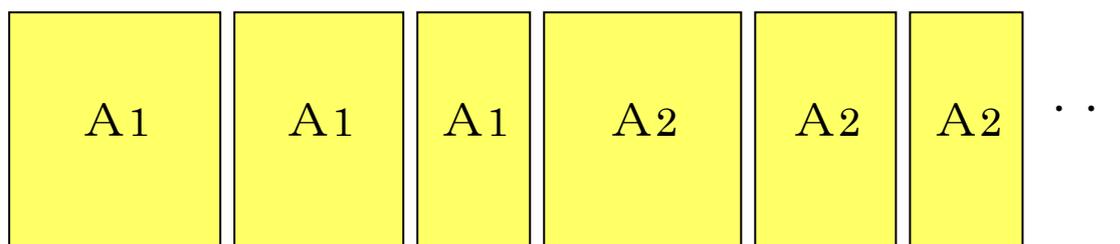


では、どうしましょうか？

このやり方を思いついた方、いませんか？



A1 から順番に3回ずつやっていくやり方です。これを思いつけば、時間短縮はカ
ンタンにできるはずですよ。



随分と改善はされますが、ちょっと問題もあります。普段からお子さんのそばで勉強
を見ている方だったら、これで問題解決とはいかないことに気付くでしょう。

なぜだかわかりますか？

子供たちはこのやり方を嫌がります。

同じ問題を何回もやりたくない！という理由です。

まあ、そうですね。なんかロボットみたいでおもしろくないのでしょう（笑）

ここで学ぶべきは、たとえ良いやり方だとわかって、**子供がやりたがらない方法であっては意味がないのです。**

よく「絶対成績が上がる勉強法」なんて本がありますが、それを読んだ人が高確率で成績が上がったなどと聞いたことはありません。ごく少数は上がると思いますが。

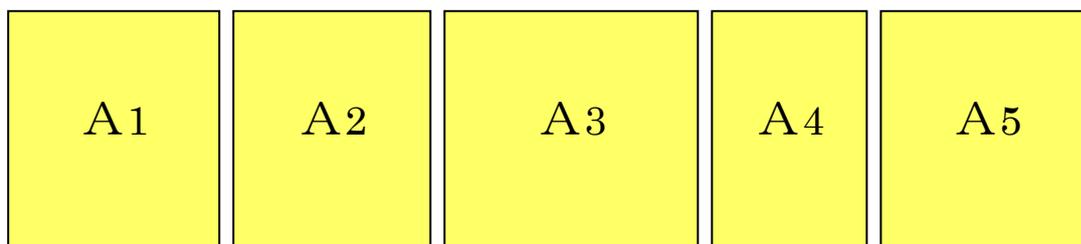
それは、紹介してある方法をちゃんとやれば成績は上がるのであって、実際にはなかなかできない方法だということです。

講座生のみなさんには、「子供がやりたがらない方法をトライしても意味がない」と意識して欲しいものです。

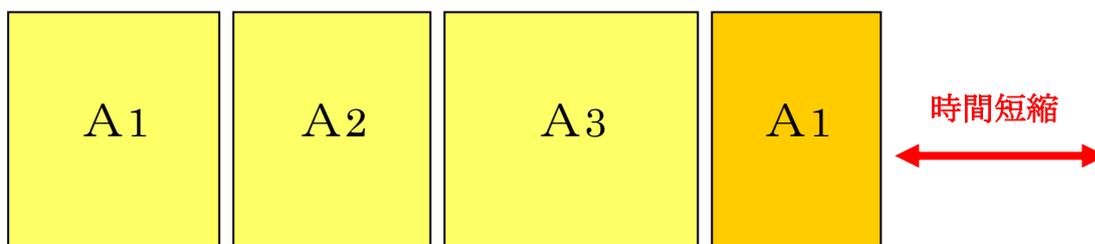
では、どうするか？

子供をうまくダメすのです（笑）

たとえば、こんな感じです。順番通りに1回目やるとすればこうですが、

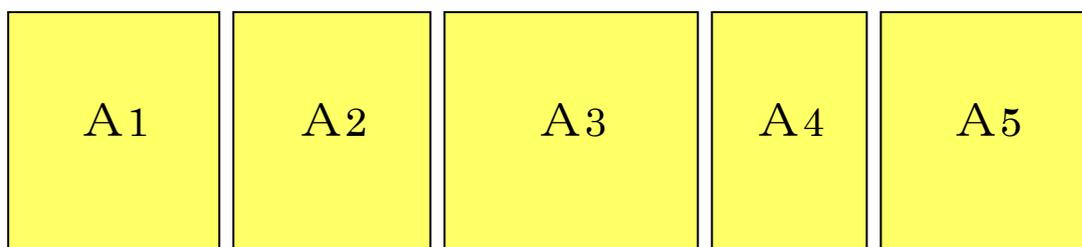


それを



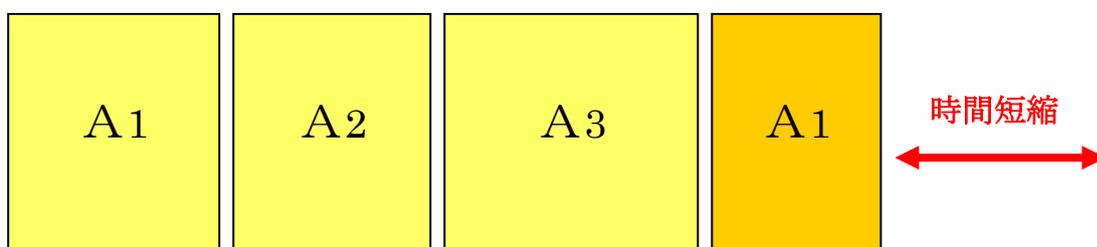
とするのです。そのことで、時間短縮ができたことに気付くことです。問題数が少ないからだって思う方は、大間違いですよ！

では、全部を通して見てみましょう。そのままの順番で3回やるとすれば、

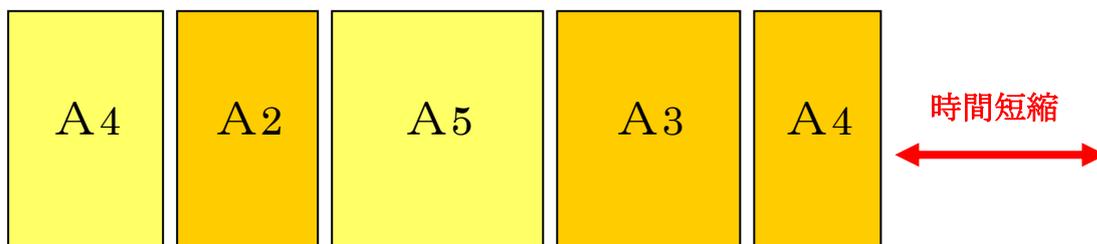


の3倍の時間がかかることとなります。(鮮度が落ちることを前提に考える)

それを

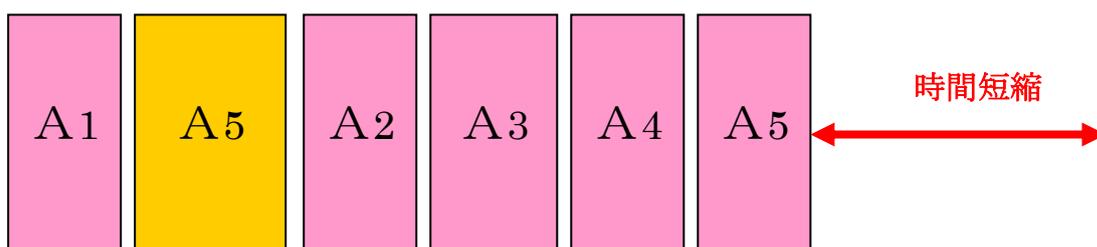


としますので、ここまで一気にさせます。そして、こう続けます。



いずれも2回目は、時間短縮できる間隔でさせること。同じ日に2回目まではするのが理想です。そして、子供をノリノリにすること。

そして、3回目！ここでは、記録更新！を狙って、ラストスパートです！



3回目は、日を変えても構いません。というのも、1回目→2回目よりも、2回目→3回目のほうが、もとの理解度に戻る時間も長くなります。

つまり、**鮮度が落ちにくくなる**のです。

テストまでに3回やることは、鮮度がより長持ちすることを意味します。そして、テストでは4回目をやることになるため、さらに処理力も上がる。結果、正答率だって上がる。

そうやって、**A問題の正答率90%以上**が達成できるのです（^_^）

さて、今回はちょっとした気まぐれで、私が実践している**ちょっとした工夫**を公開してみました。いかがだったでしょうか？

「タイガー山中って、こんなこと考えながら指導するんだ〜？」で終わるのでなく、「ちょっと試してみよう」なんてなれば、幸いです。

同じ問題をやる順番を意識するだけで、随分と成果が違ってきますからね。子供たちのそばで勉強を見るものは、いろいろ工夫してやれることがまだまだあります。

そして、1/2の時間短縮を達成できた子供には、**すごいじゃないか！**と大げさに褒めてやることです。だって、本当にスゴイことですから。

すると、子供たちはこう言うでしょう。

「なんか今日は、勉強があつというまに終わった。」

そうやって勉強をさせるのです。

講座生のみなさんの健闘を祈ります！ タイガー山中